

基礎学力試験 (国語)
(問題)
2024年度

<R06180062>

注意事項

- 1. 問題冊子および解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
- 2. 問題は1～4ページに記載されている。問題冊子や解答用紙の印刷が不鮮明であったり、ページが抜けていたり、汚れていたりしている場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4. 受験番号および氏名は、試験が始まってから、解答用紙の所定欄(2か所)に正確に正しい数字に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 5. 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
- 7. 試験終了の指示がでたら、ただちに筆記具を置くこと。終了の指示に従わない場合は、答案のすべてを無効とするので注意すること。
- 8. いかなる場合でも、解答用紙は提出すること。
- 9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

(一) 次の傍線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- | | | | |
|---|--------|---|---------|
| 1 | 実力は互角だ | 2 | 切れ味の鈍い刀 |
| 3 | 勇気を奮う | 4 | 雑草が繁茂する |
| 5 | 粘り強い性格 | | |

(二) 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- | | | | |
|----|------------|----|------------|
| 1 | 洗濯物がカワく | 2 | ユウダイな景色 |
| 3 | 社長にシユウニンする | 4 | 時計のハリ |
| 5 | ツウレツな皮肉 | 6 | 息ツぎが下手だ |
| 7 | ジヨウブな体 | 8 | 引退をカンコクされる |
| 9 | 命のオンジン | 10 | アツい本を読む |
| 11 | サカダちが得意だ | 12 | 電車のダッセン事故 |
| 13 | ムラサキ色のカバン | 14 | カラクチの酒を好む |
| 15 | 親フコウな息子 | | |

(三) 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

1 「スロー・リーディング¹」とは、一冊の本にできるだけ時間をかけ、ゆつくりと読むことである。鑑賞の手間を惜しまず、その手間にこそ、読書の楽しみを見出す。そうした本の読み方だと、ひとまずは了解してもらいたい。スロー・リーディングをする読者を、私たちは、「スロー・リーダー」と呼ぶことにしよう。

一冊の本を、価値あるものにするかどうかは、読み方次第である。たとえば、海外で見知らぬ土地を訪れることをイメージしてみよう。出張で訪れた町を、空き時間のほんの一、二時間でザッと見て回ると、一週間滞在して、地図を片手に、丹念に歩いて回るとでは、同じ場所に行ったといっても、その理解の深さや印象の強さ、得られた知識の量には、大きな違いがあるだろう。旅行は、行ったという事実の意味があるのではない(よくそれを自慢する人もいるが)。行つて、どれくらいその土地の魅力を堪能^{たんのう}できたかに意味がある。

読書もまた同じである。ある本を速読して、つまらなかった、という感想を抱くのは、忙しない旅行者と同じかもしれない。じっくり時間をかけて滞在した人が、「えっ、あそこにすごくおいしいレストランがあつたのに! 行かなかったの? あそこの景色は? えっ、ちゃんと見てないの?」と驚き、不憫^{ふびん}に感じるのと同じで、スロー・リーダーが楽しむことのできた本の中の様々な仕掛け

や、意味深い一節、絶妙な表現などを、みんな見落としてしまっている可能性がある。速読のあとに残るのは、単に読んだという事実だけだ。スロー・リーディングとは、A²、得をする読書、損をしないための読書と言い換えてもいいかもしれない。

丁寧¹に本を読むという意味では、昔から、「熟読」、「精読」といった言葉があるが、スロー・リーディングは、そうした読書態度を包括するものとして理解してもらえばよいだろう。その方法の一つとして、たとえば本書では、書き手の視点で読む、書き手になったつもりで読む、という読み方を紹介している。

私がこの読書法をおすすめしたいのは、私自身が、作家になる前となった後²とは、本の読み方が変わってきたこと、それによって本に対する理解が深まったことを実感しているからである。中学、高校時代に、単に一読者として小説を読んでいた頃には気がつかなかった様々な仕掛けや工夫に注意を払うようになってから、私は改めて、読書は面白いと感じるようになった。B、私だけではなく、実は作家の多くは、他人の本を読むときにも、やはり書き手の視点で読む、という作業を行っているのである。

——中略——

書店に足を運んで、日々、洪水のように押し寄せる新刊本の波に^{ぼうぜん}茫然とする経験は、誰にでもあるだろう。今なら、アマゾンの広告メールなどでも、新刊情報は絶えず手もとに届けられている。一体、何を読んで、何を読まなくていいのか、さっぱり分からない。選択の可能性が増えたといっても、手に負える限度というものがある。結果、評判になっているベストセラー本でも読んでみるか、というようなことになる。

私たちは、数十年前に比べて、はるかに容易に、はるかに多くの本を入手できるようになった。しかし、そのおかげで、私たちはかつての人間よりも知的な生活を送っていると言うことができるだろうか？ どうも、そうでもなさそうである。

なぜだろうか？

グーテンベルクによって活版印刷技術が発明されるまで、書物は当然、手書きであり、それだけに貴重品で、そもそも一般にはほとんど流通していなかった。それでも、当時の人たちは、その少ない情報だけを手がかりにしながら、今日にも通じるような深い思索を行っている。³カントやヘーゲルが生涯に読破した本の冊数が、今から考えれば意外なほど少なかったからといって、彼ら³を無知で愚かな人間だと言う人はいないだろう。

本に限らず、たとえば、音楽の世界でも同じことが言える。ジャズ・ミュージシャンのマイルス・デイヴィスは、子供の頃にはレコードをほとんど持っていなかったらしい。音楽は、生演奏か、ラジオで聴くしかなかったわけだが、それを言うなら、二〇世紀以前のクラシックの音楽家たちは、パツパでも、モーツァルトでも、彼らが生涯に聴くことができた曲の数というのは、ごくごく限られたものであったはずだ。今のクラシック・マニアの何十分の一、何百分の一程度だったかもしれない。

C、現代はどうだろうか？ 身近な友人が、プロのミュージシャンになりたいと言いだしたとする。その彼が、「だけどCDは三枚しか持っていない」と言ったら、誰でも、「おまえ、ちよつとアタマ冷やせ」と言いたくなるだろう。私たちは、ともかくも、手に入る情報を一通り揃^{そろ}

えておかなければ、何もできないというような世界に生きている。しかし、そうした時代の文学や音楽が、その分、質的に豊かになったかといえ、誰もが答えに戸惑うだろう。

かつての人間たちは、要するにみんな、スロー・リーダーであり、スロー・リスナーだったのである。

個人的な経験からしても、中学や高校時代には、そもそもお金の余裕がなかったから、月の初めに小遣いをもらって、欲しかった本とCDとを買えば、財布はすぐにスッカラカンになって、あとは翌月まで、ひたすら同じ本を読み、同じCDばかりを聴いていた。しかし、そうした頃に出会った小説や音楽は、細部まで今でもはつきりと覚えているし、自分に非常に大きな影響を与えたものとして特別な愛着を感じられる。

しかし、大人になって一度に二〇枚ものCDを買って、スキップしながらざっと聴き飛ばしてしまつたようなアルバムや、必要に迫られて、つい速読してしまつたような本の中には、ほとんどマトモに内容も覚えていないようなものもある。これは無意味であるという以上に、なんとなく寂しいことだ。私たちは、⁴どうやってもかつての世界には戻れない。これは事実である。そして、これからも、恐らくは今以上に大量の情報に囲まれながら生活してゆくことだろう。私たちは、そのすべてを網羅する必要はないし、すべてを網羅することは不可能である。もちろん、いろいろなタイプの本を読むことは大切である。自分だけの趣味に固執し、今の自分を肯定してくれるような本ばかり読んでいては、ますます視野を狭めていってしまうことになる。D、読書量は、自分に無理なく読める範囲、つまり、スロー・リーディングでできる範囲で十分であり、それ以上は無意味である。

私たちは、情報の恒常的な過剰供給社会の中で、本当に読書を楽しむために、「I」の読書から「質」の読書へ、網羅型の読書から、選択的な読書へと発想を転換してゆかなければならない。

(平野啓一郎『本の読み方』による)

問1 傍線部1「スロー・リーディング」の方法の一例として挙げられている三十字の箇所を本文中から抜き出して答えなさい。

問2 空欄Aに入るべき接続詞を次の中から選んで記号で答えなさい。

A では イ しかし ウ そして エ それゆえ

問3 傍線部2「得をする読書」とあるが、「得」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の中から選んで記号で答えなさい。

- A 書物の歴史についての知識が深まること。
- I 書き手の仕掛けを見落とさなくなること。
- ウ 訪れた土地の魅力を堪能できること。
- E 多読や速読ができるようになること。

問 4 傍線部 3 「彼らを知りで愚かな人間だと言う人はいないだろう」とあるが、それはなぜか。本文中の語句を用いて四十五字以内で答えなさい。

問 5 傍線部 4 「かつての世界」とはどのような世界か。その説明として最も適切なものを次の中から選んで記号で答えなさい。

ア 入手できる情報量が少ないため、みんなスロー・リーダーでありスロー・リスナーであった世界。

イ 何かのプロになりたかったら、手に入る情報を一通り揃えておかなければ何もしないという世界。

ウ お金に余裕がなかったためにひたすら同じ本を読み、同じ音楽ばかりを聴いていたような世界。

エ 大量の情報が流れ込んでくるため、特別な愛着を感じられるような小説や音楽が簡単に手に入る世界。

問 6 空欄 I に入るべき漢字一字を本文中から抜き出して答えなさい。

〔以下 余 白〕

基礎学力試験（国語）
解答用紙

<2024 R06180062>

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

<2024 R06180062>

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

[illegible]

+	-

(三)

+	-

$(-)$
 $(-)$

$(-)$
 $(-)$